

コード No. 28079

**Anti-Human
Dock7 (Y1118 Phosphorylated) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 50 µg

- はじめに : Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質は、細胞の形態変化、細胞分裂、分化などを司るシグナル伝達因子のひとつであり、個体レベルでは発生や器官形成を制御する重要な役割を果たしています。その機能制御は厳密になされ、機能不全が起った場合には免疫疾患や神経変性疾患などの多くの疾病の原因となっています。
- Dedicator of cytokinesis (Dock) 7 は、この Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質のなかでも Rac1 と Cdc42 を特異的に活性化する、Rho ファミリー低分子量 GTP 結合タンパク質活性化因子(交換因子)で、広範囲な発現を示す分子です。Dock7 は特に中枢・末梢の両神経組織に多く発現しているため、神経細胞やグリア細胞の増殖・分化に重要な因子であることが指摘されています。
- 神経発生に重要な EGF 受容体ファミリーの ErbB2 は、Dock7 と相互作用し Dock7 の 1118 番目のチロシンを直接リン酸化し活性化します。また、ErbB2 は乳がんの責任遺伝子であるため、抗がん剤の標的分子でもあります。Dock7 はこの ErbB2 の新しい基質であることから、乳がんとの関連が注目されています。
- 免疫抗原 : Human Dock7 のリン酸化部分合成ペプチド (ETVPQL(pY)DFTET)
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 50 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : Rat, Mouse と交差
- 参考文献 : 1. Côté JF, Vuori K. Identification of an evolutionarily conserved superfamily of DOCK180-related proteins with guanine nucleotide exchange activity. *J Cell Sci.* 2002 Dec 15;115(Pt 24):4901-13.
2. Miyamoto Y, Yamauchi J, Sanbe A, Tanoue A. Dock6, a Dock-C subfamily guanine nucleotide exchanger, has the dual specificity for Rac1 and Cdc42 and regulates neurite outgrowth. *Exp Cell Res.* 2007 Feb 15;313(4):791-804.
3. Yamauchi J, Miyamoto Y, Chan JR, Tanoue A. ErbB2 directly activates the exchange factor Dock7 to promote Schwann cell migration. *J Cell Biol.* 2008 Apr 21;181(2):351-65.